



伊勢遺跡はヤマト建国直前（弥生時代後期）に霊山・三上山の麓に出現した。30haの楕円形の遺跡で、吉野ヶ里遺跡（佐賀県）に匹敵する規模を誇った。

大型掘立柱建物が13棟見つかり、そのうちの7棟は、集落の中心をなす直径約220mの円周上に中心に向いて配置されている。本来は30棟存在していたと推察され、中心部に3間×3間の楼閣が屹立していた。これらは祭殿群で、その外側に、床面積が185㎡の大型竪穴^{せん}建物も見つかり、壁には日本最古のレンガ（磚。40cm×30cm×厚さ8cm）が張り巡らされていたこともわかった。

これだけの巨大建造物が並ぶ弥生遺跡は他に例がな

く、また、生活臭がなく、政治と祭祀に特化した場だったことも、異質なのだ。

一帯は銅鐸文化圏の中心地で、3世紀初頭、前方後方墳が近くで誕生している。巨大権力の出現を想像させるが、実態は異なる。巨大銅鐸を造り、王が祭器を独占することなく集落の皆で祭祀を執り行い、ゆるやかなネットワークで各地とつながり、交流していた。

じつは、銅鐸文化圏の人々が西に移動し、ヤマト建国のきっかけを作った可能性が高くなってきた。ヤマト建国の直前、伊勢遺跡は一気に衰退している。ヤマトに拠点を移した可能性がある。



関 裕二

歴史作家、武蔵野学院大学日本総合研究所のスペシャルアカデミックフェロー。著書に『古事記の正体』（新潮新書）、『アマテラスの正体』（新潮新書）など。



所在地
滋賀県守山市と栗東市に
またがる